

# コロナ禍における地域福祉活動についてのアンケート結果について

八重山地区社会福祉協議会連絡協議会

## (1) 趣 旨

新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な行事や活動が制限される中、人と人との関わりの機会が減り、収入の減少や孤立、育児不安等、地域生活にも大きな影響がありました。一方で、コロナ禍の中でもつながり方の工夫を模索することで交流の機会を保ち、支援の継続や新たな取り組みを進める活動も増えています。

八重山地区社会福祉協議会連絡協議会では、県社協の推進する THANKS 運動の助成を受け、「コロナ禍における地域福祉活動の課題」について、関係者間で共有し、今後の活動継続や再開につなげるため、地域において福祉活動に携わる民間企業や住民自治組織、ボランティア団体等を対象としたアンケート調査を実施しました。

## (2) 実施期間

令和3年3月1日（月）～3月22日（月）

## (3) 調査方法

各地域団体、ボランティア・市民活動を行う関係団体を対象にアンケート調査票を配布し、郵送等により回収。

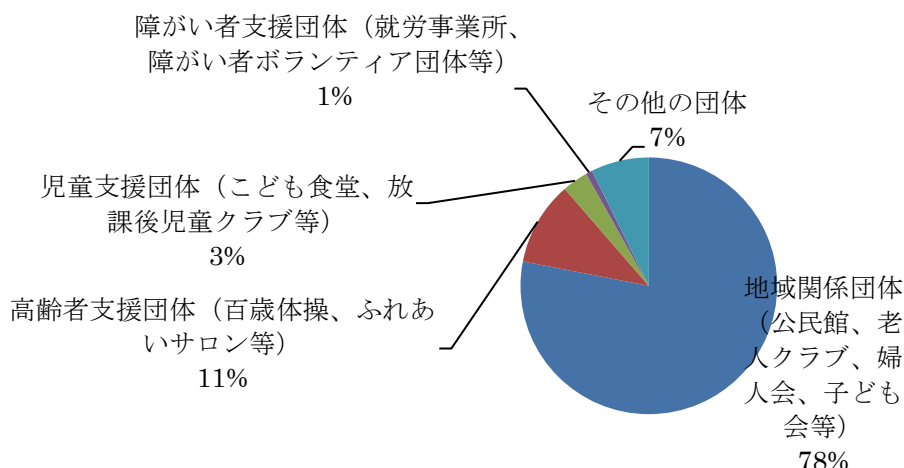
## (4) 調査対象団体

- ① 八重山圏域（石垣市・竹富町・与那国町）の社会福祉協議会
- ② 老人クラブ、婦人会、自治公民館等の地域団体
- ③ 高齢者や児童、障がい者の居場所づくり、サロン活動等の運営団体
- ④ 子ども食堂、フードバンク等の生活支援を行う団体
- ⑤ その他地域福祉活動に関わる市民活動団体、ボランティア・NPO 団体等

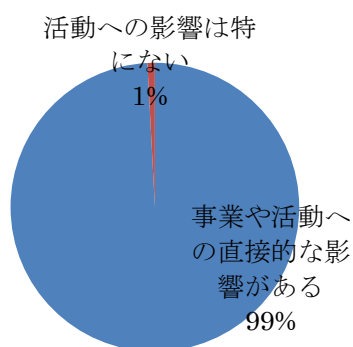
## (5) 調査概要 回答数 113 団体 / 配布数 236 団体 （回答率：47%）

- 99%の回答者がコロナにより活動に影響を受けたと回答。
- コロナの影響で最も多かったのは「開催予定行事中止（23%）」、次いで「会議等の開催自粛（22%）」。
- コロナ禍での活動実施での困りごとで最も多かったのは「活動の中止や判断（30%）」。  
次いで「コロナ状況下に対する不安（17%）」。
- コロナ感染対策で最も多かったのは「検温、マスク着用、うがい、消毒等の予防活動（25%）」、次いで「少人数での活動（26%）」。
- 活動継続や再開にむけて今後予定している取り組みで最も多かったのは、「感染予防策を講じての活動（42%）」。
- 外部からの希望する支援で最も多かったのは、「情報の提供（35%）」、次いで「必要備品の提供（25%）」。

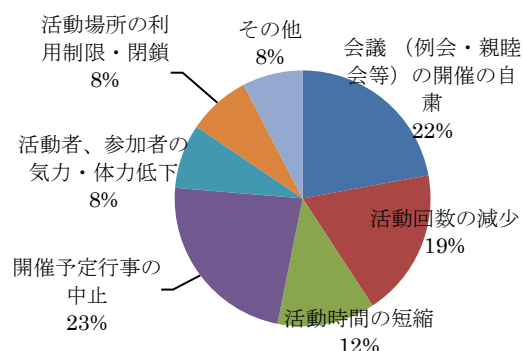
### 問 1、団体種別について



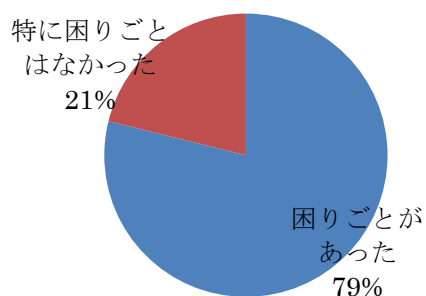
### 問 2、新型コロナウイルス感染症拡大や予防により貴団体活動に影響があったか。



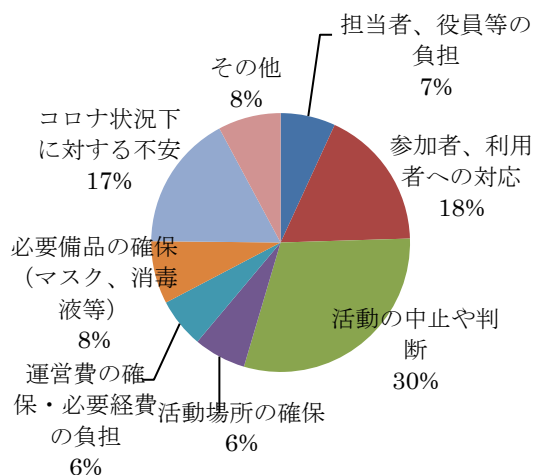
### 問 2-1、どのような影響があったか。(複数回答)



### 問 3、コロナ禍での活動実施にあたり、困ったことがあったか。



### 問 3-1、どのような困りごとがあったか。

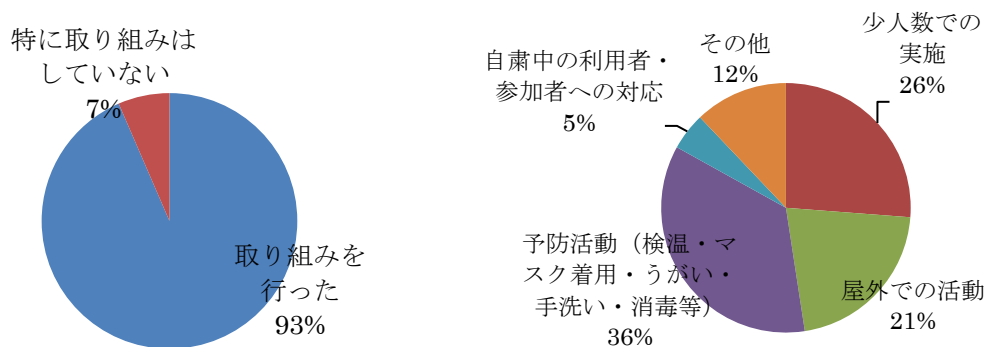


### 問 3-2、その他の困りごと

- ・マスク着用に不慣れ、活動場所の消毒

- ・各種イベントや神行事の中止等により公民館運営の減。
- ・漁業組合の一部の人間の意見により海人公園や漁港への立ち入りが制限されてしまい、細崎集落のみならず本集落も含め混乱が生じた。
- ・活動事務所（多目的室）が狭く（3密になると予防ができない）利用できなくなった。
- ・老人とのことで子ども達から外出を禁止することで体力の衰え！
- ・単位婦人会の活動はその婦人会の判断によるものとし、統一して会合の中止を呼びかけることはしなかった。婦人会活動による感染者の発生がないことを常に案じていた。
- ・年間行事計画が予定どおり出来ず、急きょ延期をしたり、中止をしたりで会員への連絡に対応するのに苦労した。
- ・個人で活動していた為、時帯にも引っかかり資金不足で負担が増えた為。
- ・開催場所がソーシャルディスタンス等で通常の2倍の場所確保の為、賃借料も高額になった。
- ・駅伝大会を実施したが、規模を縮小し会場を変更するなど、三密回避対策に苦労した。
- ・コロナ禍での活動に対し過剰に反応する方への対応 基礎疾患があるなど、身体面で不安がある方への対応 他の集落の子ども会の動きとのバランスや考え方の違いに、自分たちがやろうとしていることが間違っているのではないかという不安があった。
- ・年度計画のほとんどが実施できなかったので、会員同士の関係性の構築が図れなかった。
- ・高齢者を対象としている為、感染したら大変と気を使った。
- ・役員会議で活動事項を決定した上で困難はないです。
- ・開催や中止を決断するタイミングが難しかった。決断した時は感染者が増えている状況でも、開催時には落ち着いていて、出来たのではないかと、などの思いの繰り返しでした。仕方ありませんが、協力して下さった方に申し訳なかったです。
- ・老人会との交流の断念。子ども会としての活動の多くはできなかった。
- ・色々な活動を通して、子どもたちに経験をさせたかったが、実施したことによって、コロナの感染拡大につながり、風評被害や地域へ迷惑をかけられないことでの活動に消極的になってしまったこと。・コロナ感染が増えた時は、自宅訪問を制限したが、コロナが落ち着いてから活動を再開した。

問4、新型コロナウイルス感染防止対策について取り組みを行ったかどうか。 問4-1、どのような取り組みを行ったか。（複数回答）



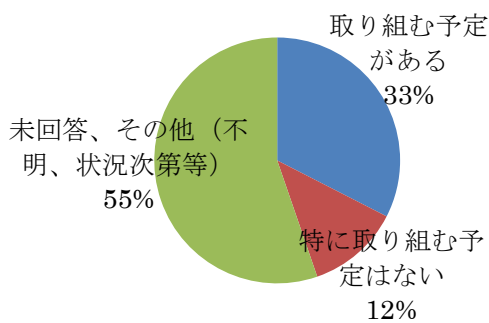
問5、活動を実施するにあたり、特に気を付けていることや工夫したこと

- ・活動継続の有無の連絡のあり方、手作りマスクの配布

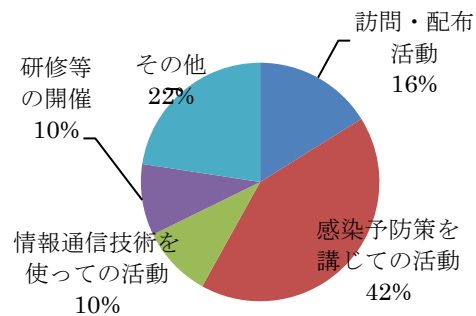
- ・医療環境の充分ではない離島、高齢者の多い島での活動なので感染防止対策には特に気を使った。
- ・当クラブは、地域の世帯構成の特異性を考慮し、地域内の世代間（小～中学生と後期高齢者）交流を重点目標にしていた為、屋外でかつ密接な状態が発生しにくい、ゲートボールやグランドゴルフを中心にマスク必着を義務化し活動を進めた。花いっぱい運動も、作業中は塊にならない様にお互いで注意しつつ、かつマスク必着で活動を進めた。
- ・実施前の部屋の消毒、換気。
- ・参加者の検温、手指消毒、マスク、密とならない座席、水分補給
- ・行政(町、県、国)の防止対策のマニュアルの普及配布と、その徹底を図った。
- ・基本的には、ほぼ全ての活動が中止となりました。話し合いが必要な時は青年会のLINEグループで意見を集め役員のみで話し合いをも行ないました。
- ・多世代型で特に決められたことをするのではなく、誰でも足を運んでもらい、自分の好きな事（物作り、読書、DVD観賞など）ができて、側に誰かが居てくれる居心地の良い時間が過ごせる様コーナー作りをしています。
- ・学校、PTA役員、各家庭の意思統一に気を付けた。
- ・時間の短縮、少人数での実施、ソーシャルディスタンスをとっての活動、活動の判断を情報（ニュース等）で会員に連絡
- ・集まる時は、広い場で離れて短時間で行う。手指アルコールなどの準備（マスク着用など）
- ・住民の不安や負担を増やすような取り組みは極力避ける。
- ・家族と同居の場合、本人（利用者）と家族の同意。
- ・ソーシャルディスタンスを確保してもら様、呼びかけた。参加にあたり、感染予防できる方みの参加をお願いした。
- ・自宅訪問ができず、駐車場での物品渡しをした。
- ・検温、マスク着用、アルコール消毒
- ・マスクの着用、手洗い、うがいの徹底
- ・エアコンを作動しながらも、出入口、窓を開けての会議をした。単位婦人会からの参加事業の際に、参加者全員にカード式の体温計を配布し活用した。
- ・活動は屋外が主ですが、室内の活動は特に気を配った。
- ・自分の健康は自ら守るという事で、常にマスク着用、手洗いの励行に心かけてる様に訴えた。
- ・県の子ども未来課の取り組みを知り参加。無料弁当の配布 2月120個、3月120個
- ・三密を避け、各自宅においてマスク作りをしました。
- ・各教室の換気、健康状態の申告、検温、マスク着用、手洗い、消毒等
- ・参加人数の制限と参加者の住所の確認、1時間毎の換気の徹底。非接触式の体温計の使用と、スタッフの衛生管理の徹底。
- ・必要最低限の人数での活動、リモートでの活動
- ・必ずマスクを着用してもらこと！すぐ外したままにする方がいるので、こまめに注意をしたりしています。
- ・密を回避するようにできるだけ配慮した。
- ・後期高齢者への三密場所への不参加へのPRを行う。1年間活動中止の為、特になし

- ・出来る限り多数の意見を聞いてから判断している。各種行事の打ち合わせには「ガイドライン」を作成し、共通認識で進めた。
- ・今までなかったことが起きた一年だったので、手探りでの対応になってしまったけれど、会員の方たちへ経緯説明などをして、状況を理解してもらえるようにしました。
- ・マスク着用の徹底 ・手洗い、消毒 ・時間短縮
- ・ゆんたく等、明るく、前向きな話や笑う事を大切にしました。
- ・予防活動、検温、手洗い、消毒、マスク着用、マスクは忘れてくる方が多々あったので、まーまーずで準備しておき、手渡すなどをして徹底し意識づけに心がけました。
- ・島の料理弁当を 80 人分会員へ配布実施。
- ・役員の集まる場所は、マスク着用、距離をとって話し合い、時間短縮で行いました。
- ・コロナの動きに気を付けていた。郡内での感染者が出たら、前日でも活動を中止するなど、人の流れ、人の集まり方など、一日一日違う判断が必要になる事もあった。

問 6、活動継続や活動再開にむけて、新たに予定している取り組みがあるか。



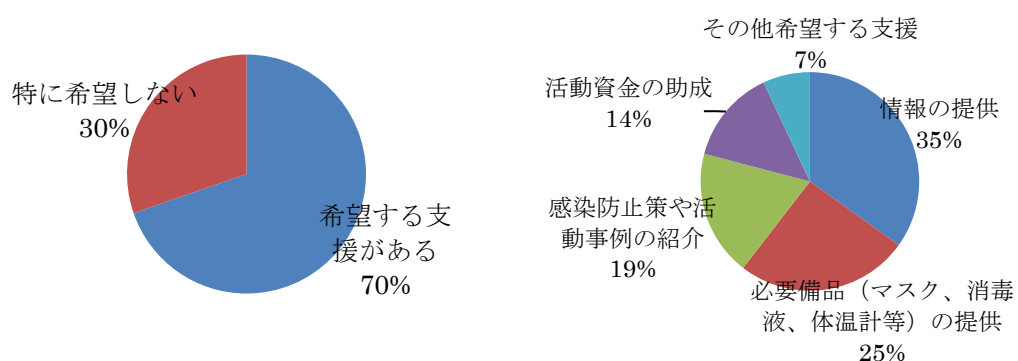
問 6-1、どのような取り組みを予定しているか。



- ・勉めて「身体を動かし」、かつ「おしゃべりや会話を増やす」事を薦めた。三密を避ける為、屋外活動に集中した。
- ・当小浜島は群外からの観光客でにぎわう島で人の出入りが多い、関心、意識を高め、うながすために港入口にマネキンを設置し「三密を避ける」「マスクの着用を」のプラカード、雑貨店、飲食店等への来客に対するお願いなど。
- ・観光客への注意、呼びかけ
- ・サロンメンバー宅で玄関訪問。状況確認。
- ・参加者の水分補給用のコップを提供しなかった。
- ・大浜老人クラブ長寿会主催グランドゴルフ大会参加者に対して以前から大会当日まで予防活動と呼びかけ実施した。大会中はマスク着用を徹底した。
- ・地域への協力依頼（旧盆における訪問の自粛、三密運動の展開）
- ・使用したテーブルや椅子などの消毒・常に換気を良くする
- ・屋内での行事は参加人数を例年の半数以下にし、時間を半分に短縮した。参加者には手指消毒、検温の実施。
- ・感染拡大期間は定例役員会を中止、また、その他の期間は会議を昨年までの半数開催とした。

- ・屋内の古謡の練習はできるだけ密接にならないよう離して腰かけてもらった。
- ・各テーブルの距離を広げる ・布マスク作成し、老人世帯宅へ配布(100枚)
- ・新型コロナウイルス感染症に係る、沖縄県主催イベント等実施ガイドラインに沿った防止策を行った。
- ・例年、地域の方々にも応援して下さり、大人数が集まる行事（駅伝大会）だったが、会場を中学校に変更し保護者のみの観戦にするなど、少人数化を図った。
- ・島の子達を守る為、公園のトイレの使用を団体観光客には自粛を求めた。観光会社了承済。
- ・診療所の医者と公民館の連名で感染防止対策のポスターを作成し島内の要所に貼っている。
- ・屋内での活動になってしまう場合には、窓を開ける、扇風機を回すなどで換気を行いました。
- ・地域の人たちとの交流を中止したこと。食事関係は、テイクアウト食にしたり、バイキングの取り分けは育成会が行うことを徹底したり、席を離したりの対策をした。
- ・活動を控えた。 行事をほぼ全て中止とすること。
- ・体温計やマスク、消毒等、町役場や社協より提供してもらった。間隔を大きく開け、通気、換気に気を付けた。
- ・常に「ソーシャルディスタンス」と言い、高齢者にも言葉を覚えてもらうようにしました。
- ・食事関係は一切中止した。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策は組織力ではできない。各自、家庭生活の中、感染防止が必要。医学的にも感染防止が困難、高齢者は死亡率が高いこと、軍事的戦争よりも防止は難しい事、役員会議を開催
- ・取り組みながら計画していましたが、ほとんど中止になってしまったので。
- ・公民館にアルコール消毒液を設置。 ・席の間を開ける、体面を避ける。
- ・毎年行っている行事についても、どのようにしたらいいのかを全てコロナ対応として取り組みました。SNSも利用しました。
- ・ソーシャルディスタンスと三密回避を心がけた。・消毒液を各家庭に配った。
- ・毎年行っていたラジオ体操を去年は自宅でもらった。
- ・感染状況を見極め、延期や中止の判断をした。

問7、今後の活動継続や活動再開にむけて、 問7-1、どのような支援を希望するか。  
外部から提供を希望する支援があるか。



#### 問7-2、その他希望する支援

- ・相談会や後援会の講師の確保
- ・仕事が無く収入が減ったのに助けを求められない人もいます。情報がわからない人も他県からの移住者は親も人もいない事もあります。民生委員の方の仕事が増えると思いますが声かけが大切。
- ・自動販売機の収入を活動費としているが、コロナ禍の影響で、港ターミナルに設置をしている自動販売機の収入が3分の1に落ち込み、本福祉会の活動に支障をきたしている。

#### 問8、自由記述（その他の意見等）

- ・コロナで感染予防をしながらレクやお別れ会（予定）を行えたのは良かったが例年より活動は少なく、子どもたちも外出自粛などで辛い思いをしたと思うので、次年度はもう少し活動ができるようになってほしいと切実に思います。
- ・長年、運営・活動をしてきた団体の継続の為、助成金の必要を痛感している。
- ・快適に活動できる場所を作ってほしい。（たとえば、椅子の調整、クーラーなど）
- ・保険加入も毎年ありがとうございます。安心して活動できます。今後はレク等の応援もお願いいたします。